

プロフィール

氏名	あべ きよし		
	阿部 潔		
所属	社会学部社会学科	職名	教授
学位	博士（社会学）	専攻	メディア／コミュニケーション論
所属学会	日本マスコミュニケーション学会，日本社会情報学会，日本社会学会，関西社会学会		
学内職歴			
研究分野	批判的社会理論の系譜を踏まえながら「公共圏とメディア」という視座から、現代社会の問題点を理論的かつ具体的に考える作業を続けてきた。近年は、カルチュラル・スタディーズの知見を踏まえて、「ナショナルなもの」に潜む問題点を、具体的事例に即して研究している。これまでの研究に一貫する問題意識は、理論と現実を分断的に捉えるのではなく、いかにして両者を媒介する「知」は可能なのか、という課題に取り組むことである。		

この研究業績等の一覧は、主要研究業績を除き本年度を含み過去5年度分を表示しています。

## 主要研究業績

区分	著書名・論文名・論題名等	掲載誌／巻・号／発行所／学会名等	発行／発表年月
<b>&lt;2008年度&gt;</b>			
著書			
単	スポーツの魅惑とメディアの誘惑 —身体／国家のカルチュラル・ スタディーズ—	世界思想社	2008, 07
<b>&lt;2006年度&gt;</b>			
著書			
共	空間管理社会—監視と自由のバラ ドックス—	新曜社	2006, 09
<b>&lt;2004年度&gt;</b>			
著書			
共	メディア文化を読み解く技法 — カルチュラル・スタディーズ・ジ ャパン—	世界思想社	2004, 06
単	Everyday Policing in Japan: S urveillance, Media, Governmen t and Public Opinion	International Sociology 19(2): 215-31.	2004, 06
<b>&lt;2001年度&gt;</b>			
著書			
単	彷徨えるナショナリズム オリエ ンタリズム／ジャパン／グローバ リゼーション	世界思想社	2001, 09
<b>&lt;1999年度&gt;</b>			
著書			
単	日常のなかのコミュニケーション —現代を生きる「わたし」のゆく え—	北樹出版	2000, 01
<b>&lt;1998年度&gt;</b>			
著書			
単	公共圏とコミュニケーション—批 判的研究の新たな地平—	ミネルヴァ書房	1998, 04

## 業 績

区分	著書名・論文名・論題名等	掲載誌／巻・号／発行所／学会名等	発行／発表年月
<b>&lt;2008年度&gt;</b>			
書評			
単	ジグムント・バウマン『リキッド ・ライフ 現代における生の諸相 』大月書店	『週刊読書人』2008年4月25日号	2008, 04

招待講演

単	スポーツ番組が語るもの／伝えられ方・視られ方—ジェンダー／セクシュアリティ／マシーンの交叉点—	日本スポーツとジェンダー学会第7回大会シンポジウム「個を尊重するスポーツ・メディアの可能性」	2008, 07
単	Sporting Body and the Performing Public Sphere	ISSA(International Sociology of Sport Association)2008 5th World Congress:Sport and Society at the Crossroads,Symposium 'Sport and the Public Sphere'	2008, 07

<2007年度>

著書

単	The Logic of Surveillance and the Predicament of 'the Social'	Kosaka, K. and Ogino, M. (eds.) A Quest for Alternative Sociology, Melbourne: Trans Pacific Press.	2008, 03
共	幸福の社会理論 (放送大学教材)	財団法人 放送大学教育振興会	2008, 03

論文

単	メディア・イベントとしてのオリンピック —東京／ロサンゼルス／アテネの四〇年—	NHK放送文化研究所編『現代社会とメディア・家・世代』新曜社	2008, 03
---	---	--------------------------------	----------

学会報告

単	Myth of the inter-activity: Critique of ICTs in Japan	Theory, Culture & Society 25th Anniversary Ubiquitous Media: Asian Transformations	2007, 07
単	Myth of the interactivity: Critique of the interactive ICTs in Japan	IACSS (Inter-Asia Cultural Studies Society)2007 Shanghai Conference	2007, 06

翻訳

共	カレン・ロス／バージニア・ナイチンゲール『メディアオーディエンスとは何か』	新曜社	2007, 11
---	---------------------------------------	-----	----------

書評

単	近藤瑠漫浪・谷崎晃編著『ネット右翼とサブカル民主主義 マイデモクラシー症候群』三一書房	『週刊読書人』2007年11月16日号	2007, 11
---	---	---------------------	----------

評論

単	フィルムセッションが生み出す風景 —一瞬の緊張を通して「伝える」もの—	『関西学院大学人権研究』第12号	2008, 03
---	-------------------------------------	------------------	----------

招待講演

単	メディア状況の変化をどうみるか —「共感する私たち」への訴えかけの危うさ—	FCT創設30周年記念国際フォーラム「メディア・リテラシーと市民のエンパワーメント2007」パネルディスカッション「メディア状況の変化とメディア・リテラシー」	2007, 09
---	---------------------------------------	---	----------

<2006年度>

著書

単	Critique	Theory Culture and Society, 23 (2-3): 195-197.	2006, 05
---	----------	--	----------

論文

単	Technologies of Surveillance	Theory Culture and Society, 23 (2-3): 265-267.	2006, 05
---	------------------------------	--	----------

評論

単	フィルムセッションという挑戦 —「知恵としての人権教育」を目指して—	『関西学院大学人権研究』第11号	2007, 03
---	---------------------------------------	------------------	----------

<2005年度>

論文

単	公共圏（ハーバーマス）	大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一編『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版	2005, 06
単	想像の共同体（アンダーソン）	大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一編『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版	2005, 06

書評

単	バトリック・ラーデン・キーフ著 『チャター 全世界盗聴網が監視するテロと日常』	『週刊読書人』2006年1月13日号	2006, 01
---	--	--------------------	----------

招待講演

単	快適な監視社会はありうるのか？ —見張る／見守ることの両義性をめぐって—	社会情報学フェア2005『マッシブセンシング：環境埋め込み型センサ群の社会的浸透への是非』予稿集、pp.23-25.	2005, 09
---	---	--	----------

<2004年度>

著書

共	メディア文化を読み解く技法 カルチュラル・スタディーズ・ジャパン	世界思想社	2004, 06
---	----------------------------------	-------	----------

論文

単	監視社会における「幸福」の条件 「見守られる幸せ」が突きつける問い	『先端社会研究』創刊号、関西学院大学出版会	2004, 12
単	スポーツとナショナリズム	飯田貴子・井谷恵子編著、『スポーツ・ジェンダー学への招待』第1章第3節	2004, 07
単	スポーツとジェンダー表象	飯田貴子・井谷恵子編著、『スポーツ・ジェンダー学への招待』第2章第4節	2004, 07
単	スポーツにおける「男同士の絆」 —ホモソーシャルな関係の意味するもの—	阿部潔・難波功士編『メディア文化を読み解く技法—カルチュラル・スタディーズ・ジャパン—』世界思想社	2004, 06
単	コミュニケーションとしての「放送の公共性」の意義—公的な世界／私的な世界の媒介に向けて—	『放送メディア研究』vol.2、日本放送協会放送文化研究所	2004, 06
単	市民社会とジャーナリズム	田村紀雄・林利隆・大井眞二編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社	2004, 05
単	グローバル化とナショナリティ —「越境」と「セキュリティの帝国」の狭間で—	『現代スポーツ評論』10	2004, 05

レフェリー付論文

単	Everyday Policing in Japan: Surveillance, Media, Government and Public Opinion	International Sociology, Vol19 (2): 215-231 SAGE(London, Thousand Oaks, CA and New Delhi)	2004, 06
---	--	--	----------

書評

単	三浦耕吉郎「カテゴリー化の罫 —社会的〈対話〉の場所へ」好 井裕明・三浦耕吉郎（編）『社会 学的フィールドワーク』世界思想 社、2004	『関西学院大学人権研究』第9号	2005, 03
単	清水論編『オリンピック・スタデ ィーズ 複数の経験・複数の政治 』（せりか書房）	『週刊読書人』2004年10月22日号	2004, 10

その他

単	シリーズ〈現在〉への問い 第2 部 地球サバイバル6. 情報社会 は人々の結び付きをどう変えるか ？	『毎日新聞』2005年3月28日夕刊	2005, 03
---	---	--------------------	----------

<2003年度>

論文

単	テクノ・ナショナリズム	吉見俊哉・花田達朗（編）社会情報学ハンドブック、東京大学出版会	2004, 03
単	家族と国家の可視化と「ナショナ ルな主体」の想像／創造	小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどう見られてきたのか オーディエンスのいる風景』せりか書房	2003, 11
単	イラク戦争に見たナショナリズム とメディア —「反米」気運の意 味するもの—	『AURA Research Report』159、フジテレビ編成 局調査部、8-13ページ	2003, 06
単	アスリートたちの有名性 —スポ ーツ・メディアの言葉の貧困—	『木野評論』、34号、127-133ページ	2003, 04

書評

単	ジョージ・リッツア、丸山哲央編 著『マクドナルド化と日本』（ミ ネルヴァ書房）	『週刊読書人』2004年2月13日	2004, 02
単	加藤晴明著『メディア文化の社会 学』（福村出版）	『ソシオロジ』第48巻1号、153-156ページ	2003, 05

その他の活動

活動内容	発行／活動年月
------	---------